⑤ 一文字菊（いちもんじぎく）、管物菊（くだものぎく）花壇　作り始め：1925（大正14）年



一文字菊は、花びらが16枚前後の大きな花を咲かせる一重咲きの菊です。その花の形が天皇家の御紋章に似ていることから御紋章菊ともよばれます。
管物菊は、筒状の花びらが放射状に咲く菊で、26品種194株の菊を植え込んでいます。上家は、木材を組み立てて作る木軸上家で、越屋根造りです。

⑥ 肥後（ひご）菊花壇　作り始め：1930（昭和5）年



肥後（熊本）で藩主・細川公が文化政策の一つとして園芸を奨励し、それを受け武士の精神修養として発達した古典菊です。一重咲きで、平たい花びらと管状の花びらがあり、花びらと花びらの間に隙間があるのが特徴です。上家は竹とよしずで作る竹木軸上家で、最も小さな花壇ではあるものの、黒土に敷かれた苔など、細部にこだわりが見られます。

⑦ 大菊（おおぎく）花壇　作り始め：1884（明治17）年

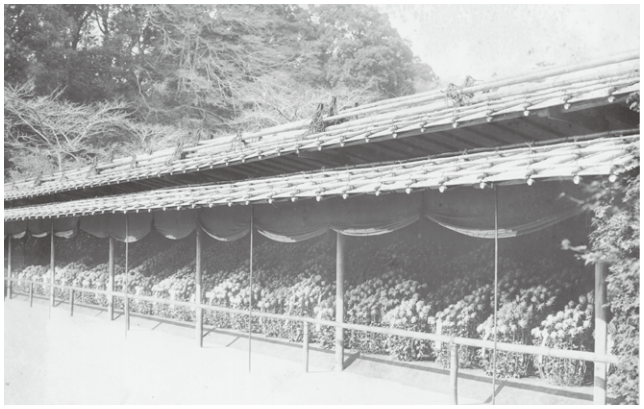


手毬のように丸く咲く大菊は、園芸菊の代表的な品種です。神馬の手綱模様に見立てた「手綱植え」と呼ばれる新宿御苑独自の様式で、39品種311株の大菊を黄・白・紅の順に植え、全体の花が揃って咲く美しさを鑑賞する花壇です。上家の屋根はシンプルな切妻作りで、花にボリュームがある大菊に合わせて設計されています。

菊花壇展のご案内

公開日　　11月1日～15日
公開時間　9:00 a.m. ～ 4:30 p.m.（最終入園4:00 p.m.）
＊公開期間中は、特別開園期間として月曜日も休まず開園します。

新宿御苑の菊花壇



1878（明治11）年、宮内省は皇室を中心として菊を鑑賞する初めての「菊花拝観」を赤坂離宮（当時は仮皇居）で催しました。1880（明治13）年には名称が「鑑菊会」に変更され、外国使臣も招待して国際親善を図る行事となります。展示用の菊は、当初は赤坂離宮内の丸山仕立場で栽培されていましたが、1904（明治37）年から新宿御苑（当時は植物御苑）でも一部の菊の栽培が始まります。1925（昭和4）年には鑑菊会用の菊栽培は全て新宿御苑で行うようになり、1929（昭和4）年には、観菊会の会場も新宿御苑へと移されました。その後、自然災害や戦争の影響で、1937（昭和12）年から1948（昭和23）年まで中断を余儀なくされましたが、国民公園新宿御苑となった1949（昭和24）年以降は、皇室の伝統を受け継いだ菊花壇展を毎年一般公開しています。

大正から昭和にかけては、観菊会の展示規模や技術、デザインなどが最も充実した時期で、これらによって新宿御苑は皇室苑地として、広く海外にまで知られるようになりました。

〒160-0014　東京都新宿区内藤町11　Tel 03(3350)0151
https://policies.env.go.jp/national-garden/shinjukugyoen/
https://fng.or.jp/shinjuku/
環境省新宿御苑管理事務所

新宿御苑
Shinjuku Gyoen National Garden

菊花壇展

皇室ゆかりの伝統を受け継ぐ

特色あふれる菊

① 懸崖作り花壇（けんがいづくり） 作り始め：1915（大正4）年



野菊が断崖の岩間から垂れ下がって咲いている姿を模しています。新宿御苑では、清楚な一重咲きの小菊を使用し、一株から分岐させながら伸ばした茎を竹と針金でできた骨組みに這わせて、形を作っていきます。上家は竹とよしずで作る竹木軸上家で、上家の前には水の流れが引かれています。

② 伊勢菊（いせぎく）、丁子菊（ちょうじぎく）、嵯峨菊（さがぎく）花壇 作り始め：1955（昭和30）年



地域独特の発展を遂げた菊の品種をまとめて「古典菊」と称しますが、そのうち3種を同時にみることができる花壇です。伊勢菊は、平たい花びらが縮れるように咲き、次第に長く垂れ下がる品種で、三重県伊勢地方で発展した菊です。丁子菊は、花の中心部が盛り上がるように咲きます。嵯峨菊は、花が開くにつれて平たい花びらがまっすぐに立ち上がる品種で、京都の嵯峨地方で発展した菊です。上家は、木材を組み立てて作る木軸上家で、越屋根造りです。

③ 大作り（おおづくり）花壇 作り始め：1884（明治17）年



新宿御苑独自の技法により、接ぎ木はせずに一株から1年以上をかけて枝数を増やし、数百輪の花を半円形に仕立てます。姿かたちを揃えた無数の花を同時に咲かせるには、高度な技術が求められ、菊花壇の中の白眉とも言われています。上家は、木材を組み立てて作る木軸上家で、ひときわ目を引く花壇です。

④ 江戸菊（えどぎく）花壇 作り始め：1878（明治11）年



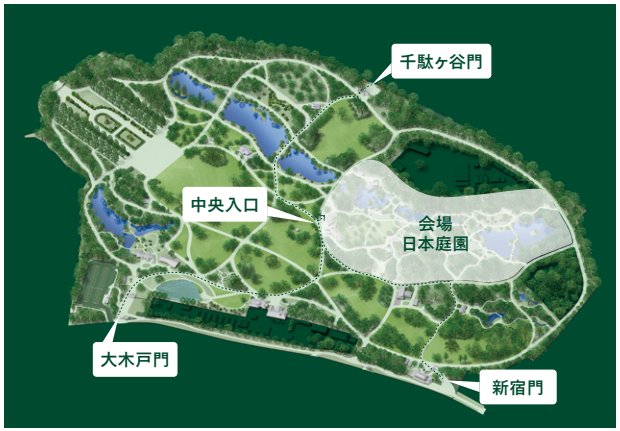
江戸（東京）で発達した古典菊で、開花後様々に変化する花びらと色彩を楽しむ菊です。その様相から舞菊（まいぎく）とも呼ばれ、花形の変化のパターンは品種によって異なります。上家は木材を組み立てて作る木軸上家で、展示中に開花が進むように太陽光の当たる南向きに設置されています。





皇室ゆかりの伝統を受け継ぐ新宿御苑の菊花壇展は、毎年11月1日～15日までの間、日本庭園で開催されています。開催期間中、回遊式の日本庭園内に上家（うわや）といわれる建物を設け、その中に特色あふれる菊の花々を独自の様式を基調に飾り付けています。

それぞれの菊花壇は、順路に沿ってご覧いただくと、最も美しく鑑賞できるように飾りつけられています。



菊花壇展会場へは菊花壇展入口（日本庭園の中央入口）よりお入りください。

菊花壇展開催期間中は、新宿門入場ゲートの外側にあるインフォメーションセンターにて、新宿御苑菊花壇展の魅力を分かりやすく紹介する「菊花壇解説展」を開催しています。